

# OB会報

湘南サッカー部OB会報 第24号

## 原っぱで遊べない大人たち

39回生

岡本 行夫

(外交評論家)

僕はサッカー部の落ちこぼれなので、こんな巻頭のスペースに出ることは、限りなく恥ずかしいのである。

湘南高校サッカー部の狭い部室の、汗と、息苦しさと、グリースの臭い。空気に入れで、ひとつのひとつ皮のボールをふくらませ、そのあとボールを皮紐で丁寧に縫う。練習のためのボールを用意するのは、けっこう大変だった。なんとという素晴らしい時間であったか。カネがないのでなかなか買えなかったスパイクが手に入った時の嬉しさは、いまフェラーリがクジに当たって手に入ったとしても得られるものではない。

大学でも運動部には入ったが、ボールを使う競技ではなく、社会人になったその後もボールからは遠ざかったまま過ぎた。戦場のような毎日の仕事が続いていると、「ボールを蹴る」という単純なことが、遙か彼方の夢のような出来事になる。そんな馬鹿なはずはないと自分でも思うが、ボールをぶつける壁もない。誰かの施設の壁に向

かって蹴って、ボールの跡をくつきりと残すなどは社会人としてできることでない。思いっきりボールを蹴飛ばしたい衝動に駆られて何十年。

もちろん決心をしてボールを買い求め、地図で探し回って広い空き地を確保し、いくつかのアポイントをスッポカして出かけ、もうひとつ面倒なことに、この子供じみた僕の欲求につきあって相手になってくれる人間を電話で探さなきゃならない。この一大プロセスの後に、初めてこの単純行為ができることになるのだが、これをやってる時間と余裕がないのだ。こんなことも意のままにならない自分の人生って何なのか。

仕方がないので事務所で仕事をしながら、ボールを右手から左手に投げて遊ぶ。ただし丸いサッカーボールではなく、だ円のアメリカンフットボールのボールなのだ。

実は、僕はアメリカのナショナルフットボールリーグ(NFL)のアドバイザーをしている。フットボールは、

競技人口、ファン数ともメジャーリーグ野球(MBL)の二倍以上の規模だ。圧倒的なナンバーワン人気スポーツだ。その関係で、日本フットボール協会という小さな組織の理事長もしている。フットボールとは、身体が十分固まっていない子供たちが本格的なアメリカンフットボールをやって怪我をしないよう、腰に布を手ぬぐいのごとくぶら下げ、この布を取ったらタックルとみなすものだ。そのほかは、アメリカンフットボールと同じルールで行う。子供たちに戦略的な競技方法を教えられるというので、正式の体育科目として採用する小中学校が増えていく。もう全国で二千数百校になる。

自分では原っぱで遊べない情けない大人たち。僕もそうだった。とてもじゃないが、鈴木中先生や、小泉キャプテンや、仲間達の前に胸を張っては出られない。「ウサギ追いかの山」の如く、湘南高校のグラウンドが遙か遠くから呼んでいる。そういう自分の時代に入ってしまった。

(編集部注) 岡本氏は、外務省を北米第一課長を最後に91年退官、岡本アソシエイツを設立。以降内角官房参与、首相補佐官として日本の外交に多大なご尽力。イラク担当時には「奥克彦氏事件」で辛い思いをされる。現在、政府・企業等への助言活動の傍ら、新聞テレビ等でもご活躍中です。



私の息子、龍一が湘南サッカー部のキャプテンになったと聞いたときは嬉しいような、照れくさいような、「(おまえで)大丈夫かよう」といった一抹の不安も混じる複雑な気持ちだった。

息子がサッカーをやり始めたのは、息子の幼稚園時代四・五歳の頃、家の近くの公園で私とボールを蹴り始めたのがきっかけだった。息子とボールを蹴って汗を流した後、ビールを飲むのが当時の私の休日の日課だった。だが当時息子はまだどのサッカークラブにも所属してなく水泳教室に通っていて、水泳の一級が取れたらサッカー部に入れてやると私は言っていたのである。小学校四年の秋、水泳の一級が取れたの機に、息子が通っている片瀬小学校を主体とした片瀬サッカースポーツ少年団に入部した。初めは私は冷ややかだった。「俺はサッカーをさんざんやった、もうサッカーはいいよ。おまえ勝手にやっつてろ。」という感じだった。だが、息子のサッカーの試合

を二度、三度見ているうちにまた私の中のサッカーの血が騒ぎ始めた。それからは都合のつく限り毎回息子のサッカーの応援に行くようになった。当時の片瀬サッカーチームは常に藤沢市1・2位をしめる強さだった。そのため試合数も多く年間50試合を超え、藤沢市を代表して松本市へ遠征したり、韓国へ親善試合に行ったりもした。小学校のサッカー部の運営は父母中心であり親も大変である。練習当番、試合当番、試合会場への車だし、合宿準備、監督・コーチへの食事の用意等々。試合になれば親は口だけ、「走れ！突っ込め！そこだ！撃て！」。そして勝てば祝勝会、負ければ残念会、忘年会、新年会、初蹴り、バーベキュー等々、親子を交えての親睦会(飲み会)である。子供が中学校になるとサッカー部の運営の主体は学校側になるので、小学校時代ほどではないが相変わらず父母との交流会は続く。そして気が付いたら息子は母校湘南のサッカー部にいたと言うわけである。

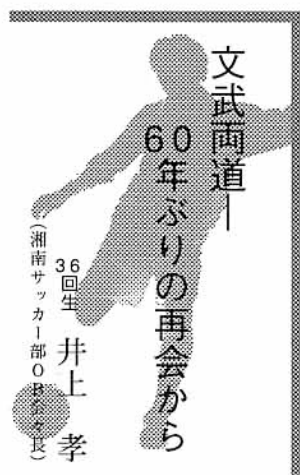
現在、妻はサッカー部の保護者会、PTAの役員で頻繁に湘南高校に行き、私は試合のたんびに母校へ行く。親子三人で湘南に通っているようだ。(われわれの頃はサッカー部の保護者会など無かった。時代も変わったもの

と驚く。)息子のチームのサッカーを観ることはある意味では全日本の試合を観るよりも燃える。そんな興奮する試合をただ(無料)で、母校のホームグラウンドで観ることができるのでありがたい。(清水監督の絶大なる力によって試合会場は湘南高校になることが非常に多い。感謝!)そして重要な試合に勝てば若い奥さん方と手を取り合って喜ぶ。(毎回試合に応援に来て湘南が勝てば涙を流すほど熱心な女子マネージャーの母親もいる。)こんな母校通いもあと1年続くことになろう。

ところで、還暦を過ぎた今(何しろこの年になって高校生の子がいるのだからお恥ずかしい)、自分の人生を振り返るとそのキーワードは「サッカー」である。就職もサッカー部関係のツテであり、故岩淵先生との付き合い、いまだに続くサッカー部OB、同期、後輩の皆様との交流、そして息子のサッカー関係の父母との親睦と、私の人生の核となっているのは常にサッカーであった。私も曲がりなりにサッカーをやっていたおかげで楽しい充実した人生を過ごすことができた。もし自分がサッカーをやっていたら全然別の人生になっていたのは確かである。

現役の皆さんもこれから入部してくる若い人たちも、高校時代のサッカー部生活はわずかに3年間であるけれども、その影響、その余韻は生涯続くことを知ってください。そして楽しく豊かで充実した人生を過ごされるよう祈っています。

(編集部注)渋谷氏の現役時は、関東大会準優勝(優勝は市立浦和)、国体及び全国選手権大会出場と活躍されました。



つい先日、12月4日、世田谷の第一生命グラウンドにおいて、湘南サッカー部OBと仙台一中・一高サッカー部OBとの交流が行われた。湘南は50シニアを主体に、仙台は40・60歳代で2試合を行った後に、クラブハウスで懇親会を開いた。

今回の交流のきっかけは、私の勤務先の同僚に仙台一高サッカー部のOBがいたことである。サッカーの話題から、たまたまその出身を知ったこと、昨年度の会報で書いた昭和21年の湘南中全国制覇の報告書のこと、が脳裏に

あったことから、談これに及び、「そのとき、仙台一中が東日本の代表決定戦の相手だったそうです」とお話しした。この報告書が仙台に伝わり、それから、是非60年ぶりの交流をとということになった。

仙台一中・一高サッカー部の東京OB会の滝沢さんという方が、熱心に動いてくださり、両校校章・ユニフォームマーク入りのTシャツの作成を含め、万端の計画を立ててくださった。仙台側は30名、その内6名の方は仙台から駆けつけてくださった。両校OBは、大学、SOI、あるいはシニアサッカーなどを通じて、旧知の人たちも少なからずいた。仙台側からは当時のメンバーが6人も参加し、必ずしも60年振りの方々ばかりではなかったが、多くの方はそのとき以来のようであった。湘南側の当時の選手としては、桑田さん(22回)、小林さん(24回)、下さん(24回)が出席、昭和21年10月20日の東日本代表決定戦の回顧談となった。延長、延長の末の下さんの決勝点のお話に大いに沸いた。この後、湘南が西日本代表の神戸一中との決勝戦に勝って全国優勝を遂げたのは、周知のとおりである。

囲気のよさであった。60年前のメンバーの方々、大変僭越な言いながら、両校ともまことに立派な風貌の方々であり、社会的にも随分と活躍されたことが伺われる。また、両校の(相対的に)若いOBもみなさんジェントルマンである。FUSのときに、いつも感じることであるが、「文武両道」という言葉が実感できた。以前は、若いときから精進した武道やスポーツを職業にすることは、きわめて少数の種目に限られていたが、近年はそれが広がってきた。スポーツが人々に感動を与え、められるようになってきたのである。しかし、種目は広がったとはいえ、それで食べていかれる人はやはり少数である。その種目で日本あるいは世界のトップクラスに入らないと、スポーツ(武)を食える道にするのはなかなか難しい。それに比べれば、文を大げさに学問などと言わず、ある程度秀でた学力や教養と考えると、これをもって食べている人は、武に比べれば圧倒的に多いはずである。文と武が単独で食える道になっているなら、文武糧道?である。そこで、欲をかいいて、文と同じに武をもそれなりにやっておきたいと思う。「息子は、サッカー命なんですよ!」と湘南の母親に言われたとき、

「それで、いいです」と私は、いつも言っている。

柔道の世界級の試合を実際に間近にすることがあるが、柔量級の棟田康幸選手と井上康生選手の試合場での挨拶はまことに気持ちが良い。姿勢が良いし、丁寧である。武張ったさまではない。その道で一流の人はやっぱり違うものであって、ときにお話する機会のある、やはり柔道の山下泰裕さんもつねに丁寧な挨拶をなさる。ここに、上述の東日本代表決定戦の東大御殿下グラウンドにおける試合前の挨拶の写真がある。相対した湘南・仙台のイレブンはみな手をきちんと膝の上において丁寧な頭を下げている。時代がそうであったとはいえ、実に立派な姿に感激した。これも、まさに文が武と両立している姿であろう。

文武両道は文字通り学問と武芸の二道と言うが、とりわけ古には「和歌と蹴鞠(けまり)」の二道のことと、広辞苑にもある。もともとが蹴鞠であるなら、わがサッカーこそこれに相應しく、湘南・仙台のOB諸兄はその具現者として頼もしく感じられたのである。これを契機に両校の今後の交流をという声を仙台の幾人もの方からいただいた。ご同慶の至りであり、実現を望むものである。

**70才以上の  
福井ロイヤルエイジ大会**

世話役  
26回生 酒井 佐弘  
27回生 山本 修

70才以上対象の第4回福井ロイヤルエイジ大会が9月11日(日)12日(月)に福井県三国町で開催され、昨年に引き続き湘南OBサッカークラブの名前で参加しました。70才以上のサッカー人口の増加を反映して、この大会の参加数も昨年の8チームから今年は11チームに増えています。

湘南OBは下記の10人が参加、OB以外の湘南ベガサス2人のほか、神奈川四十雀、東大LBの応援参加を得て、14人で遠征しました。

湘南OB参加者 小林(24回)、川島(25回)、酒井、鈴木(26回)、栗原、山本(27回)、近藤、嶋田、末永(28回)、塩川(29回)

小林75才以下の、ロイヤルエイジとしては若い年齢構成で、3戦全勝の好成績でした。

9/11 湘南OB 1-0 関西ロイヤル  
得点 酒井

9 / 12 湘南OB 2-1 関東好々爺

酒井 2

湘南OB 5-0 北海道七十雀

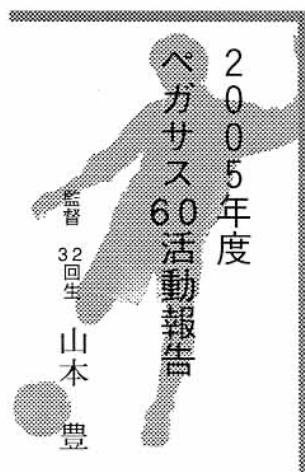
守屋 2 佐野 末永 嶋田

今年新規参加の関西ロイヤル（神戸FC・大阪FC連合）と北海道七十雀の2チームは、どちらも、60才代の間サッカーを続けてきて70才になったと見られる若手が多く、走力もキープ力も確りしていました。関東好々爺も東京四十雀主体に埼玉・千葉も参加の強敵でしたが、我がチームもボール廻しが快調で、守備陣の健闘もあって、3試合とも勝つことができました。

湘南ペガサスクラブも高齢化が進んで70才以上メンバーが年々増加し、各種の60才以上大会の行事の中で、70才以上対象の紅白戦などに参加するようになっていきます。来年は湘南ペガサス70の単独チームが編成されて、福井ロイヤルエイジ大会に参加できることが期待されます。

## 2005年度

### ペガサス60活動報告



監督 32回生 山本 豊

今年度からの年度開始の変更により4月から監督を務めております。

まだ本年度の全スケジュールが終了しておりませんので、一部中間報告になります。

さて、六十雀の登録メンバーは41名、年初での平均年齢は66歳ですからいまは67歳くらいになるでしょうか。すでに70歳の単独チーム（ロイヤル）が出来るだけの元気なメンバーがそろっているのが、わがチームの特徴でしょうか。さらに、こちらの年長さん組の方が年間の出席率も上々でむしろ若い（一）方がいまだ現役で忙しい人が多いせいか、試合のメンバーが不足する傾向があります。先のことを考えると積極的に若返りを促進しないといけません。

本年度は4月10日のG埼玉（深谷市のスカイアルミグラウンド）で、60グループは山梨、埼玉、東京、神奈川を相手に2勝1敗1分、65グループは東京/千葉連合、群馬、埼玉と対戦し2勝1敗という戦績からスタートしまし

た。晴天、桜満開で23名の参加があり、とりあえず良い気分のシーズンスタートではありました。ついで16日に県リーグが始まりこちらも緒戦の神奈川に2-0の勝ち試合でスタートをきりました。引き続き、例年のことですが、活発な県外試合への参戦が始まり、5月21、22日には古河大会（1勝1敗2分）、27、29日はJビレッジ（3勝1敗）、7月2、3日には那須スポーツセンターでのG栃木大会に参加、この時は60グループは日立、埼玉、群馬、千葉と対戦し3敗1分と大苦戦、65グループも日立、栃木、混成軍を相手に1勝1敗1分と強豪ペガサスとしては不本意な結果となりました。

多少の言い訳と反省を込めていうと、他チームの若返りが進んでいることがありますが、それまで良く顔を出していた相手チームのおなじみプレイヤーが若手と交代してしまった、というケースや、チームとしても定期的な練習会を開いている、という前向きな話を聞きます。この那須の後遺症が残っていたのか、7月23日に保土ヶ谷で開いた他県を招待しての親善試合でも埼玉、千葉にまたまた苦杯を喫し、立ち直りの機会とすべく勇んで乗り込んだ10月1、2日の刈谷大会でも1勝1敗2分と古河大会と同結果、11月5、

6日の「武田の里」では優勝する意気込みでしたが、勝つと思っていた八王子に負け、またまた1勝1敗1分、さらに神奈川県肝いりで始まった県シニアフェスタでも、いつも勝たせていただいているYKに0-1、神奈川に2-2、拳句の果て3位決定戦でも再度対戦したYKに2-3、このところどうも他チームの皆さんから愛されるチームになってしまいました。

という状況ではありますが、勝ち点でG60神奈川リーグでは最終戦（1月の茅ヶ崎戦）の結果如何を問わず、ペガサスの首位がすでに決定。肝心の県リーグ戦では本来の力を発揮して優勝いたしました

一方、70歳以上のロイヤルの試合も徐々に増え、埼玉、古河、Jビレッジ、刈谷、武田の里、那須、での各大会に組み込まれました。これらの試合へもペガサスのロイヤルチームが参戦しましたが、このチームがまた強くて赫々の戦績をあげています。さらに、県内でのロイヤルリーグ設立の機運も熟しており、今年60リーグ戦の後を利用して、各チームの有志による練習試合が始まっています。単独でロイヤルチームが編成出来る、というのもペガサスのメンバーの深さです。80歳を越

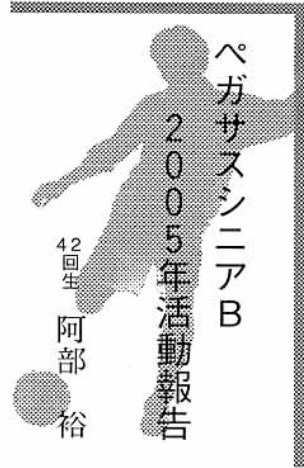
えても活躍していただきたいものです。

このような具合で本年の戦績は今ひとつでしたが、物事には好不調の波があり、今シーズンがやや低めに出ていると考えれば、来年度あたりには又強いペガサスに戻るでしょう。なにより証拠は本年の各試合への参加者平均数が19名、一番多かったのは7月23日の保土ヶ谷での親善試合の30名、少なかったのが刈谷の15名という具合で、いつも多くのメンバーが参加していること、そして、集まった全員がサッカーの試合を心から楽しみ全力を出し切ったことです。

以上のほかの出来事としては、有志によるアメリカ遠征や、エグザクト社のシニア向けDVD月刊マガジンに、元気でシニア生活をエンジョイしているグループの代表としてペガサスシニアが取り上げられ、試合風景やメンバーへの「なべおさみさん」からのインタビューなどの撮影取材を受けました。18年2月に発売されるとのことです。付録として、われわれの刈谷の宿としてこのところ利用していた「名鉄イン刈谷」が、世間を騒がせている設計数値偽造ビルの一つで営業停止になったことも、後で知ってびっくりしました。滞在中地震がなくて本当

に助かりました。

来年度も多くの若い新規加入者を迎え、メンバー全員でペガサスライフを楽しんでいきます。



シニアがA、B二つのチームに分かれての2年目を迎えるにあたり、チームの主力2名がシニアAへ移籍、またメンバーの中の何人かは60雀への参加を主体にするとのことで、戦力面だけでなく人数の面でも不安を抱いて、平成17年度神奈川県50雀2部リーグのシーズンを迎えることになりそうでしたが、開幕までにシニアAから5名がこちらに移籍して来ることになり、逆にもしかしたら優勝?の甘い期待も持つて開幕戦を待つていました。ところがただでさえ遅い予定(4/16)となっていた初戦の対「いわさき」戦が相手チームの都合(主力が50歳になるのを待つていた?)で延期され、初戦がなんと5/14までずれ込み、肩すかしを食った感じで臨んだ対「多摩」戦は、1点先行しながら、一番やつては

いけない終了間際、混戦で押し込まれ、気分は負けの1対1の引き分けスタート。またようやく1試合を戦いこれからという6/4に予定されていた第2戦がまたまた何処かのチームの都合で日程変更により延期、また1ヶ月空いて6/18の対「dfb」戦、この試合も前半1対0と先制しながら、後半立ち上がり早々の失点で1対1。6/25の第3戦対「茅ヶ崎イースト」戦によ

うやく2対0で初白星、ここで連勝して後期につなげたかった7/3の対「いわさき」戦、極端に狭い聖光学院グラウンドでの戦い方に失敗、0対3の完敗で前期を終了(1勝1敗2分)。後期開始後3週連続の試合で連勝して一気に上位をと臨んだ9/3の対「浅野・藤沢」戦は順調に前半1点を先取り、油断も有ったのか後半の選手交代でリズムが狂い、非常に悔しい1対2の逆転負け、9/10対「川崎」戦は道路の渋滞で相手8名でのスタートにもかかわらず、相手が11人揃ってからやっと1点取って1対0の辛勝、9/17対「県庁」戦3対0と連勝したものの、10/1対「小田原」戦若返った相手に思うようにやられ0対3、10/15対「秦野」戦前半は五分の戦いが出来たが、後半運動量が落ちて0対2、結局今年のリーグ戦は3勝4敗2分の

負け越しで、10チーム中の7位。得点も9試合で9点と少なかったのですが、失点が多く12点と残念な結果に終わってしまいました。

こんな成績ですから今年を振り返っても反省しかありませんが、まず負け試合のほとんどが、特に動きの落ちた後半に、中盤を支配されることになったと思います。クリアしたボールを相手に取られ再度攻められて失点するパターンが多かったようです。攻められた時、MF・BKが皆下がつてしまい一次攻撃をしいでも、FWとの間が空き過ぎるため中盤で相手にボールを拾われ、二次、三次と攻撃を受けるといことです。また攻撃面では、縦パスを生かすための横パスが少なく、簡単に相手に読まれ止められることの繰り返しでした。来年度は下課題を心掛け、優勝を目指したいと思えます。

●中盤の守りの意識を高め、出来るだけ高いBKラインを保てるよう心掛ける。

●基本ではあるが、パスを出した後少しの動きにより横パスのコースを増やすことで、相手BKを引き出し裏のスペースを作り出す(相手にやられていない)と同時に、無理な縦々の攻撃だけでなく、緩急をつけた攻撃を心掛ける。

●他のチームは50歳に成り立ての若手?の補強が多く、今までの対戦のイメージを持って臨むと、「あれっ、こんなはずじゃ?」となるので、常に新たな気持ちで試合に臨む。

●全員起用は当然だが、特に前後半のメンバーのバランスを考えた選手起用を行う。特に後半の運動量が落ちるようなメンバー編成は避ける。



今年度の活動は、シニアサッカーリーグの日程は終えましたが、12月から全国シニア予選および、1月からシニアリーグ参加全チームの県議長杯トーナメント戦を残していますので、実際には、前半終了といったところで、

リーグ戦の戦績は、4勝3敗3分けで、昨年度の2位から4位に後退してしまいました。全国出場を目指すわれわれとしてはちょっと情けない成績ではあります。しかし、リーグ戦の成績が今年から全国大会と関係の無いものに

なってしまう、新たに全国シニア予選が組まれることになりました。そこで、シニアAとしては、この予選を勝ち抜くべく努力したいと思っております。

今年の50雀1部リーグは11チームの構成で、以下が各チームとの戦績です。

4月16日	対	横須賀	2-1
5月14日	対	綾瀬	0-0
5月28日	対	平塚	3-0
6月4日	対	中沢	1-2
6月11日	対	d f b ボロンズ	1-1
7月16日	対	神奈川	1-0
9月3日	対	茅ヶ崎ウエスト	1-1
10月1日	対	茅ヶ崎ベスト	0-1
10月8日	対	栄光	1-0
10月15日	対	横浜	1-4

今年度のリーグの特徴は、2部から上がってきた2チームがかなり強い(50代前半の若いメンバーが多い)というか、そのうちの横浜はなんと優勝してしまいました。今後この傾向は続

くと思われ、各チームとの差があまりなくなる傾向にあります。上記の点差からわかるように圧倒的に1点差の試合が多いということで、ともかく先にゴールを入れたほうがかなり有利にな

ります。

8月の中休みまでの戦績は、3勝1敗2分でしたが、このうち今期5位の中沢に敗れてしまったのは最大の取りこぼしでした。また綾瀬、ボロンズとの引き分けも悔やまれる取りこぼしです。そして3つ目の引き分けである茅ヶ崎ウエストも圧倒しながらも勝ちきれませんでした。この4チームにきちんと勝てなかったのが、今年成績が下がった理由といえます。ペガサスより上位の3チーム、横浜、茅ヶ崎ベスト、神奈川との戦績は1勝2敗でした。これら3チームと、実力的に大差はありません。ベスト、横浜に勝つチャンスは十分にありますが、事実、勝ちまたは引き分けでもおかしくない試合内容でありました。

シニアAの特徴として、守備の安定がありません。基本的に失点は1までで、後は攻撃を工夫して如何に点を取るかということなのですが、リーグ戦を通して、攻撃が安定しませんでした。

やや言い訳めきますが、今年はけが人が多く、22人の登録選手のうち、常に集まれる数は15人前後で、少ないときは12人ということもありました。逆に言えば、チームとしていかに厚み

を持てるかということが、リーグ戦を勝ち抜き、全国予選を勝ち抜くためのポイントになると思います。現在の最大の問題はゴールキーパーで、正ゴールキーパーの田中さんが病欠で復帰の目処がつかず、FWの黄瀬さんにゴールの守りをお願いしている現状です。黄瀬さんは素晴らしいゴールキーパーぶりなのですが、彼が参加できないときは、ゴールの守備はたちまち不安定になってしまいます。この誌上をお借りしまして、シニアAのゴールキーパーを募集させていただきます。どなたか推薦できる方がいらっしゃれば、是非小生のほうまで、声をかけていただきたくお願い申し上げます。再来年には、ジュニアのGK潮田さんがシニアでプレーをしてみたいと思っておりますが、長いシーズンをこなすためには、GKは最低2名必要ではないかと思っております。また、前記の戦績を見てもお分かりのように、FWの得点力も問題が多く、有力なFWの選手を推薦いただければありがたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

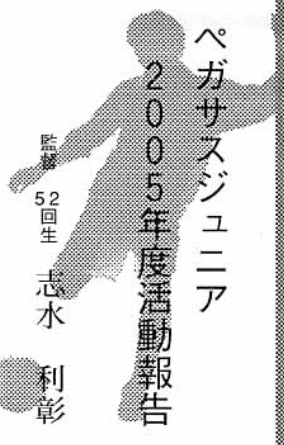
ペガサスは、湘南OBを母体としてチームが発足しましたが、現在のチーム構成では、湘南OBは少数派です。今後ともチームを維持発展させていく

ためには、湘南OBばかりでなく、外部の能力のあるメンバーが必要であるのは間違いありません。そして、そうした有為な人材を取り込みながらチームとして発展していくべきであるとは私は思っております。しかしながら、湘南のチームカラーは、ペガサスらしさ、の核であるとも考えております。今後ともその核を残しチームの維持発展を図っていくべきだとも思います。そのためには、やはり湘南OBの積極的参加が望まれます。このOB会報を通じて、40歳以上の湘南OBのペガサスへの参加を呼びかけたいと思います。特に50歳以上のOBの方、是非シニアA、Bへの参加をお願いしたいと思います。

誰かがあるサッカー誌で言っていました。サッカーを見るのは楽しい、でも自分でプレーするほうが一〇〇〇倍も楽しいと。

ペガサスジュニア

2005年度活動報告



監督 52回生 志水 利彰

今シーズンから監督を務めることになった 52年卒の志水です。就任1年目でいきなり3部降格（3勝2分け6敗）という報告をしなければなりません。

昨シーズンは最終戦終了後 他チームの試合結果により 入れ替え戦出場が決まり 入れ替え戦に勝って残留を決めたというぎりぎりの戦いでしたので 今シーズンも苦しい戦いになると覚悟してリーグ戦に臨みましたが まれに見る大混戦のリーグ戦で3勝し勝ち点11を取りながらも 11位と落ちてしまいました。

リーグ戦を振り返ると 上位チームとの対戦では 相手がセオリー通りの攻め、守りをしてくるので 対応が取りやすく善戦できるが 中位から下位のチームに力勝負、個人技勝負の試合をされると 走力、体力の差が出て競り負けるという傾向にあったと思います。

これは 私の試合運びのまずさも一つ

の要因と考えますので来シーズンへの反省点とします。現在の四十雀2部リーグのレベルは 1部から降格して来たチームは頭一つ抜けていますがその外のチームの実力は拮抗しているその試合のメンバーの集まり具合で勝負が決まるという具合でした。というわけで最終戦まで息の抜けない試合が続き 全員出場原則を守れない試合もありました。これも来期への反省点です。

結果はともかく 毎試合 15名から20名近くの参加者があり 交代を考えるのが監督の嬉しい悩みでしたが その年齢構成を見ると 私を含めてあと数年で五十雀というメンバーが大半です。この会報を読んだ四十以上のOBの方々のペガサスへの参加を望みます。現在のペガサスのメンバー構成は湘南OBが約半分 その他は 湘南OBとのつながりがある人達ということです。

高校時代の先輩後輩の関係はあまりあらわれません(?)ので こわがらずに気軽にボールを蹴りに来て下さい。お子さんのチームのコーチで忙しいかもしれませんが 毎回参加しなくても結構です。たまには自分でサッカーを楽しんではどうでしょうか。

2005年度

トトカルチョ湘南



75回生 友松 亮  
76回生 藤巻 由太

湘南高校サッカー部卒の仲間達と楽しいサッカーをしたい。しかも、負けたくない。そんな意志を持った人たちの集まりが今のトトカルチョ湘南である。楽しむために勝つのか、勝つから楽しいのか、どちらかが先ということではなく、楽しさと勝つことの二つを両立させて初めてトトカルチョ湘南を目指すサッカーが実現できるのだ。しかし、それはもちろん簡単なことではなく、今現在もチームは自分たちの目指すべき姿に向けて日々奮闘しているところだ。

今年の主な活動内容は、昨年同様週1回の練習と神奈川県社会人リーグへの参戦である。練習に関しては思うように参加人数が集まらず、毎回少人数での苦しい練習が続いた。練習不足はリーグの試合内容にも徐々に影響してきて、結局今年是一部リーグ最下位に低迷し、来季は2部降格を余儀なくされた。

年間を通して試合を振り返ってみる

と、ラスト10分での失点、体力不足による走り負けなど敗因は様々だが、一番の反省点は「チーム力の欠如」コミュニケーション不足」であった。他の1部のチームでは監督の指導のもと週に2回は練習をやっているチームが多い。しかし、トトカルチヨは監督がいないという特徴的なチームである。みんなで意見を出し合えるというプラスの反面、意見がまとまらずにチームのベクトルが定まらないといったことに悩まされるシーズンでもあった。また、スタメンの決定・メンバー交代のタイミングなど、試合の結果に大きく影響を及ぼす事柄に関しても、監督不在というマイナス面を補いきれていないチームの実情を考えさせられる内容が今季は特に多かったと思う。

来季に向けてチームはすでに動き始めている。今季一番の反省材料でもあるコミュニケーション不足を補うために、11月下旬には大学生のサッカーサークルにはおなじみのカレッジリーグ主催の大会に出た。2泊3日の大会であり、その中で試合は約6試合もできた。

そして何より、二泊という夜の多大な時間でじっくりとミーティングを行うことができた。今季の一人一人の感想や不満など、普段は時間がなくて話せないような小さなことから、来季に向けたチームの課題など、本当にいろいろな話ができたと思う。もちろん、ゲームやトランプや麻雀もしたし、サッカーとはまったく関係のない話もたくさんした。多くの同じ時間を共有することで、また一つチームの結束は強まったと思うし、来季へ向けて良いスタートが切れたと思う。まだまだいろんな課題があるけれど、来季の目標は決まっている。「1部再昇格」。来季もまたみんなががんばっていく。

最後に新しいメンバーの募集をしたいと思う。現在トトカルチヨの構成メンバーは学生・社会人、年齢で言うと19才〜35才までと非常に幅広いチームである。個々の事情は様々で、時に人数不足に悩まされることもあるのがチームの実情だ。もう一度湘南の仲間たちとサッカーをやりたいと思ったら是非連絡を頂きたいと思う。こうしたければいけないということはなく、一から自分たちの手で作り上げていくチームなので、きっと楽しい時間が過ごせると思う。連絡待っています！

今年3月9日に他界したという突然の訃報に接して最初に思い出したのは、1年の夏休みに東レの研究所の芝生で2人で遊んでいた時のことでした。瀬戸をGKにして軽いシュート練習をしていたのですが、左右にジャンプしてキャッチするフォームの美さにびっくりしました。高校でサッカーを始めて、GKなんてやったことがないので、ダイヤモンド・サッカーで見るGKと同じフォームなのです。真横に飛んで、その姿勢のまま着地するので。普通の人間はなかなか真横（斜め上ではなく）には飛べないし、着地するときはずつ伏せになりますよね。「お前キーパーの才能あるよ、絶対キーパーになった方がいいよ。」って瀬戸に言いました。このことは誰も知らないと思います。

ところが、2年になって中さんが瀬戸をGKにコンバートしたのです。運動神経が良くジャンプ力があり体も柔らかいから多分当然だったのでしょう。



う。最初にゴールマウスに入って練習を始めた時は、さすがの瀬戸もめっちゃくちゃでした。キャッチやパンチングをしないで足で蹴ったり、でも反射神経としなやかさはよくわかりました。その後は皆さんが知っている通り、故晴夫さんの指導であつという間に上達して不動のレギュラーGKになりました。3年になると、同期のキャプテンでCBの曾我と2人、当時の湘南高校としては初の神奈川県選抜チームにも選ばれ、鈴木中監督のもと鹿児島で行われた国体でも活躍しました。

瀬戸は慶大を経て大阪のダイキン工業に入社し人事部で良き上司や奥様とめぐり合い、サッカー部も設立しました。数年前に国際人事部長になったことは新聞の人事欄で知っていました。が、まさか胃の手術をした後に赴任したとは知りませんでした。親友、我がチームメイト瀬戸の冥福を祈るとともに、ご家族の方々がこの悲しみを乗り越えられお幸せになられますよう心から願っております。



鈴木中先生

文部科学大臣

生涯スポーツ功労者表彰

39回生 小泉 親昂  
(OB会副会長)

鈴木中先生は、県サッカー協会会長として、今年度の文部科学大臣スポーツ功労者表彰を受けられました。

この表彰は、市町村などの地域及び職域において、スポーツの健全な普及及び発展に貢献し、もって地域におけるスポーツの振興に顕著な成果をあげたスポーツ関係者で、現在もその活動を継続している者を、大臣が表彰する者です。

今回の受賞は、神奈川県内では5名で、県のサッカー関係者では3人目です。

受賞の理由は、長年にわたり指導者の育成、国体代表選手の育成など神奈川県サッカーの競技力向上に顕著な功績をあげるとともに、神奈川県サッカー協会の理事として同協会の社団法人化に、そして現在も会長として、安定した協会運営に力を尽くしていることが評価された者です。

私達教え子としても大変喜ばしいことで、先生には心からお祝い申し上げます。

ます。今後とも県サッカーのためにご尽力下さるようお願い致します。

我がサッカー人生



元顧問 鈴木 中

サッカーを始めて早50数年になろうとしている。一九五〇年頃、思い起こせば終戦後何もやる事が出来ない時代に、よくもまあ野球少年がサッカーなどを始めたものだ。これも当時学芸大学の付属中学にサッカーを教える先生がいて「サッカー」の指導を受けたのがスタートであった。

高校に入るとまた熱心な理科の先生でサッカーの指導者と出会った。高校3年間は本当にサッカー少年で、物の無い時代に1、2個のボールをみんな蹴って(ラウンドキック)サークルキックとも言い、皆で円になってボールを蹴りあう練習を何時間もやった記憶がある。お米持参で合宿もやり東京で優勝し、全国大会に「東京都」の代表で出場した輝かしい記録が残っている。

その後父の影響を受けて教師になろうと不景気な時代に、自然の成り行きで進路が決まり、教育大学(後の筑波大学)で体育学を学び、サッカーに本格的に取り組みインカレの優勝等々結構良い記録も残し、そのまま京都に就職し教員チーム(京都紫光ク・パールサンガの前身)で蹴りながら、京大の研究室で「キネシオロジー」等と言う研究をした思い出がある。

当時湘南の校長が「香川幹一氏」で熱心なサッカー狂いの校長だった。東京オリンピックの関係で前任の「宮原孝雄先生」が教育委員会に転出され、後任として急に大学の学部長を通して、関東へ戻れと言う命令で湘南のグラウンドに立つことになった。昭和36年5月の事であった。3年生が4人(牧村・大林・小林・荻野)の名前は忘れられない。その年直ぐ西宮の全国大会に出場した。

それから28年間湘南サッカー部一筋、昭和の最後63年に6回目の全国へ駒を進めた年に湘南を後にした。その後数年間、管理職の時代を過ぎ、あつという間に定年を迎え、第2の人生は「神奈川県サッカー協会・理事長・会長」の10年間が終わろうとしている。ここ

に「古希」を迎え一区切りの時を迎え次の「冥土」までの生き方をどうするか思案中である。

ただ一つだけ言えるのは、形は変わってもサッカーへの情熱はいつまでも変わらず「湘南高校」サッカー部への愛着を持ち続け、孫のような現役選手達に「良いサッカーをやろう・湘南高校でしか出来ないサッカーをやろう」と言い続けて、少し時間が出来たのでグラウンドに顔を出すことをお許し願いたい。

「生涯サッカー人・指導者・コーチ」  
「我がサッカー人生万歳」中爺(古希)

05年を振り返って



監督 清水 好郎

昨年度、新人戦の予選敗退によって関東大会予選に出場できず、総体予選(5月)まで準備期間が長く、生徒のモチベーションを保つことが大変でした。結果は総体予選二回戦負け、選手権予選はブロック決勝で敗退してしまいました。

チームの力は県大会上位チームと遜

色はないのですが、特に総体予選、選手権においては相手に崩されていのにGKの経験不足と、DFの不安感が失点を生んでしまいました。

チームを私一人で全部見ることが無理であるため、5月から79回の鈴木君をコーチに頼み、週に2回(水曜日と日曜日)Bチームの指導にあたって頂きました。おかげでU・17リーグでは2部Bブロックで1位になることができました。合宿等には同じく79回の高橋君がGKのコーチに来てくれたおかげで若干ではありますが、GKの悩みが解消されたような気がします。新人戦も地区大会をなんとか突破して県大会への出場権を得ました。

今年度から学区が撤廃され地元生徒が半分を割ってしまい、部員も例年に比べて少ないです。また、一年生に一人や二人はレギュラーがいるのですが今年度はGKのみですので今後の動向には不安を感じています。

3月にはスペイン、ビルバオ遠征を控えており、生徒のモチベーションも高く、県大会の上位進出を目標に部員共々頑張りたいと思います。OB各位におかれましては今後ともご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

現役からの報告



いつも現役である僕たちに、思いっきりサッカーに専念できる環境を整えてくださり、本当にありがとうございます。全国でも誇れる環境の中でサッカー出来ることを幸せに感じ、これからも努力していきたいと思っています。それでは2005年の現役の報告をしたいと思います。

今年度本来、出場していなければならぬ新人戦、関東大会予選に出場できない悔しさを痛感することから始まりました。ひたすら繰り返しされるフィジカルトレーニングもこの悔しさがあつたからこそ乗り越えられた気がします。そして、チーム全員がリベンジを誓って総体予選を迎えました。しかし初戦は順当に勝ったものの、2回戦で秦野南ヶ丘に0-3で敗れてしまいました。崩されていないのに自分たちのミス、集中力の欠如から失点してしまうというのが敗因だったように思います。

不完全燃焼に終わってしまった総体

予選の後、先生から「チームのペースは出来ている。まだまだこのチームは強くなる。」と奮い起こされました。この言葉を信じ、もう一度チームのモチベーションを取り戻した僕たちは、選手権予選でブロック決勝進出というところまで辿りつきました。しかし、ブロック決勝の厚木北戦でまたしても自分たちのミスによって失点し、結局0-3で敗れてしまいました。決して満足できる結果を残せたチームではありませんでしたが、みんながサッカーにまじめに取り組むいいチームだったと思います。

新チームは総体予選、選手権予選を経験している選手がベースになっているので

先生の「プレッシャーをかける守備の基本」が少し身につけてきた感じがします。前代のチームからの課題である得点力不足はまだまだ解決されていませんが、一対一の「戦う気持ち」の充実しているところ、夜遅くまで多くの人数が自主練に励んでいる姿をみて「自分たちはまだまだ強くなれる」と確信しています。現在チームは新人戦予選をなんとか突破し、またU・17の2部リーグもBブロックを1位で突破し、1部昇格をかけた試合を目標に必死に練習しています。自分たちの努

力で得たチャンスなので必ずものにしたいと思います。そして現状に満足することなく、

常にサッカーの基本である「止める」「蹴る」そして「走る」の能力を伸ばし、その上に三対一、四対二といった基礎を積み上げていくことでさらにチームをレベルアップさせていきたいと思っています。個人としても、常にチームに具体的な目標を設定し、ミーティングを増やすなどして、チームを強くしていきたいと思っています。

最後に、来年の3月末にはスペイン遠征を控えるなどますますOB会の方々にお世話になると思いますが、先輩方の作ってきた伝統、そして青いユニフォームに恥じないように懸命に努力していきますので、これからも宜しくお願い致します。

2005年度 公式戦戦績

湘南高校サッカー部マネージャー

総体予選

v s 麻生 (3-0)

v s 秦野南ヶ丘 (0-3)

## 選手権予選

vs 藤嶺藤沢 (2-1)

vs 弥栄東 (3-0)

vs 平塚学園 (2-1)

vs 厚木北 (0-3)

U-17

vs 奥寺スポーツアカデミー (2-0)

vs 横浜隼人 (2-0)

vs 港南台 (0-2)

vs 湘南学院 (2-1)

vs 湘南工科 (0-0)

vs 座間 (1-0)

vs 神奈川朝鮮 (1-0)

## 新人戦

vs 鶴沼 (2-0)

vs 藤嶺藤沢 (1-0)

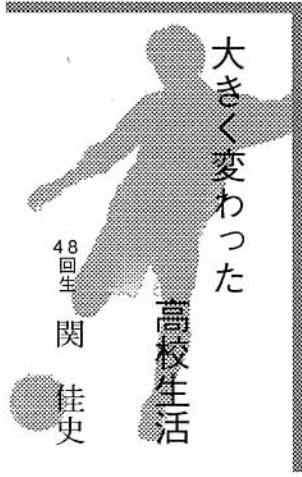
vs 鎌倉 (2-2) PK (2-4)

vs 湘南通信 (2-0)

vs 藤沢西 (0-0) PK (6-5)

## 大きく変わった

## 高校生活



48回生 関 佳史

## ○ サッカー大会の変更

↳ プリンスリーグとU17

高校、クラブの垣根をなくし、リーグ戦方式で公式戦の数を増やしレベル

アップにつなげようという目的で、平成16年度から神奈川県U17リーグが開始。上はプリンスリーグにつながっています。

関東U18プリンスリーグは関東20チームで、平成17年度は神奈川県から横浜Fマリノスユース、桐陰学園、桐光学園、弥栄西の4校が参加し4月から8月で実施。勝ち抜いたFマリノスユースが10月の高円宮杯に出場しましたが敗退。桐光学園、弥栄西は入れ替え戦にまわり来年の神奈川県枠は計3となります。

神奈川県U17サッカーリーグは神奈川県独自の方式で、高校、クラブを1部から3部まで分けリーグ戦を行なっています。1部は16チームが属しA B プロックに各8チーム、2部は32チームが所属しA B C Dの各8チームずつでのリーグ戦を行っています。湘南高校は7月から9月に行われた2部Bグループで優勝、C1位の旭高校に12月11日に勝てば1部に昇格します。

全体のスケジュールと大会の位置づけが若干変化しています。新人戦が9月後半から12月、中央大会は1月から2月。4、5月の関東大会は新人戦のベスト64、前年の高校選手権ベスト16が予選参加しますが、神奈川県はプリンスリーグ参加校が関東大会に出ませ

ん。以下、高校総体(5、6月)、高校選手権(7月、10月、11月)は全校が県予選に参加できます。

高校選手権は7月に一次予選で24校まで絞ってしまうので、敗退すればそこで3年生は引退。勝っているチームは、3年生のいる選手権チームと2年生以下のU17チームの2本立てになる場合もあります。

湘南高校の場合、受験があるため選手権に照準を合わせにくいこともあり、2年生主体のU17リーグを今後重視するのが清水先生の方針です。

## ○ 受験制度の変更

平成15年度の受験生から中学の成績が相對評価から絶対評価に変わりました。前期の30%は内申書と面接のみとなったため、前期の生徒はほとんど全員オール5。生徒会長をやったり、部活動で優秀な成果をあげると内申点がアップします。後期70%は試験があります。平成17年度の高校受験から学区制が廃止となり、県内どこからでも受験できるようになりました。これにより全県から受験生が集まり、今年の1年生は約50%が学区外。偏差値からみると受験のレベルは上がるようです。

サッカーをやりたい生徒にとつてはどうなるでしょうか?入試が難しくなる

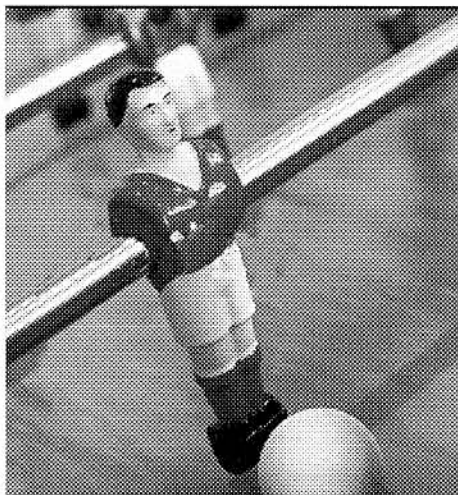
ことは間口を狭くすることになります。が、全県から受験が可能ですので、サッカーも勉強もしっかりやりたいという生徒にとっては魅力があるのではと思います。

## ○ 最近の校風

湘南高校を受験する動機が、昔とはずいぶん異なるようです。受験や部活動よりも「体育祭」に憧れて入学する生徒も多いと聞きます。ストーリー、踊り、音楽、バックボード、セットなど総合的な出し物を制作。学年を超えて分業した結果を発表することは、なかなか体験できないことです。しかも、湘南の生徒は自主的に企画し自分達で積極的に実施する力があります。部活動をやらない生徒にとっては唯一先輩後輩を実感でき、男女の交流の場でもあり、受験勉強の中のアアシスとなっているようです。

数年前、高校選手権の予選でベスト24に入りながら中心選手が体育祭をやりたいがために引退したということ。監督が嘆いていました。しかし、生徒が高校生活に望むものが変化していることも事実のようです。

行事では、浦高戦が平成15年度から廃止になりました。男女比が約半々になっており、今も男子校の浦和との



ギャップが廃止の背景にあるようです。

私学が台頭し、相対的に湘南高校が受験という意味でパワーダウンしていることは否めません。東大入学者数がすべてではありませんが、昔は百名弱いたものが十名前後という状況です。また、浪人することについての抵抗感も下がっています。男子は約半分が浪人。極端に言えば、高校生活は楽しんでおいて、受験勉強は浪人の1年で集中して行うという考え方です。また、部活動をやらぬ生徒は1年から塾通いを勢力的に行っており、これも昔とは様変わりです。

### 「アンケート結果から学ぶ」

37回生 牧村 英樹 (OB会副会長)

#### 湘南サッカー部OB会の今後の運営について

前回の会報内にてお願い致しました「OB会の運営に関するアンケート」に対しまして数多くのご回答を頂き真にありがとうございます。集まりましたアンケートの中心を主だった項目ごとに集約した結果が下記の通りであります。早速、OB会の運営に生かせるものは今年度より取り入れを図り、検討の余地のあるものについては引き続き来年度以降にて実現の可能性を討議していきたいと考えております。

一、OB会費未納入者と会報の送付との関連について

アンケート結果

未納者も含め現状通り全員へ 42%

会費納入者のみ 34%

希望者を募って郵送。希望者からは会費徴収 24%

二、会費全般に関しての提言から

\*会費未納者への会報送付時に通信費の請求書を送付したら・・・ \*会費納入者に対するなんらかのグッズの提供をしたら・・・ \*OB会として会費の一部を社会に対しての寄付行為に向けたら・・・

三、会報の中味に関して

アンケート結果

現状でよい 70% もっと工夫を 30%

提言

\*投稿募集・自由投稿(あこのころの思い出) \*ベガサス・トトカルチョ等に偏っている。年代が偏っている。 \*会員の年代ごとに一言ずつと言った近況報告コーナー \*OBの行事・活動状況報告をもっと \*現役の文章がOBに気を使わず \*軽い興味のある話題」ユニークなOB訪問など

四、OB会の運営並びに行事に関しての提言アンケート結果

\*もっと気楽に参加できる行事企画を地区・同年代での飲み会など(地域別支部を造って定期的な懇親の場を) \*試合に参加できない人も楽しめる企画を \*気候の良い時期にサッカー祭(家族同伴)など \*現役の情報をもっと欲しい \*年2回程度簡単なパーティー(集会)は如何 \*ボランティア活動への参加 \*恒例の蹴球祭とは別にどこか球場を借りて「湘南サッカー祭」を開催

五、湘南サッカー部OB会の「ホームページ」の認知度について

アンケート結果  
よく見ている 38%  
知っているけどあまり見ない 34%  
知らなかった 22%

IT理解不能 4%

六、パソコンによる情報通信に関して

アンケート結果

賛成 38%

そこまでしなくても良い 38%

その他 10% \*希望者あてのみに会報を

会報はメールが良い 4% \*今からメール化の促進を

現状では現役への資金的支援は私達OBとして決して十分に対応できているとは言えない状況です。

前回ご報告の様に現在約850名おられるサッカー部OBの皆様のうちで参画意識を持たれて会費を納めて頂いている方々は約15%程度であります。中味を分析して見ますとやはり、現在ボールを蹴っておられる方と久しく蹴っておられない方、神奈川県内に在住の方と遠方に在住の方など各人の置かれている環境の違いにより当然の事ながら参画意識に差が出てしかるべきと思われる。今後「湘南サッカー」と言う共通のキーワードの基、一人でも多くのOBの方が賛同・参画頂けるよう今回のアンケート結果を生かして順次OB会の運営に創意工夫を図って行きたいと思っております。早速、新年度より会費納入者には「湘南サッカーロゴ入りTシャツ」をお渡しする事と致しました。